

48歳、4児の子育てをしている父親です。日頃から子ども達には、自分の考えや思いを、自分の身の丈に合った行動として表現できる人間に育ってほしいと願いながら接しています。

先月、東京外国語大学の留学生が我が家にホームステイしました。今年は事情も重なり、中国から2人、カザフスタンから2人、計4人の女子学生を2晩、受け入れることになりました。

普段から妻や私の双方の両親も交え10人で食卓を囲むこともあった我が家。「なんとかなるだろう」と安請け合いましたもの、文化も生活習慣も異なる4人との3日間は、滞りなく過ごしてもらおうことに全力を尽くす日々となりました。

事前に届いた情報には、カザフスタンからのアジナルさんとザリナさんが「豚肉NG」とありました。おそらくイスラム教徒だろうと思われ、食文化について調べてみると、「ハラール」という認証の存在を知りました。豚肉はもちろん、牛や鶏であっても処理方法によっては食べられ

献立を組み立てることに決めました。ちなみに、世界の料理と日本の料理の決定的な違い、ご存じでしょうか？それは「料理に含まれる水分量」だそうなんです。なるほどと思い、自分の料理手順を思い返すと、たしかに最初に鍋に水を張って湯を沸かすことが多いと気づきました。

一口に「中国」と言っても、その広さは想像以上。地域に

を迎えに行ったため、準備の時間はほとんど取れず。慌ただしく夕食の支度をする間、4人には子ども達と一緒に遊んでもらいました。初対面とは思えないほど、子ども達に優しく、盛り上げ上手な4人。本当に助かりました。それぞれが持参してくれたお土産も、個性豊かで温かいものでした。ヨさんは出身地ならではのパンダグッズ。我が家の玄関では、彼女がくれた可愛い8体のパンダフィギュアが、今も来客を出迎えてくれています。そして、今回初めて知ったのですが、カザフスタンはチョコレートが名産とのこと。いただいたチョコレートは風味豊かで、とてもおいしかったです。

バターフライエフエクト

上 飯田理一郎

れない場合があるそうです。ただ、信仰のスタイルも人それぞれ。厳格な人もいれば、柔軟に対応する人もいます。知り、一層注意を払うようにしました。

調べを進めるうちに、「ウロコのある魚なら大丈夫」という情報を見つけたため、魚料理を中心に

おいしい水が当たり前にある日本は、本当に恵まれた国なのだ、改めて実感しました。そんな思いから、今回の献立は「水の恵み」を生かしたメニューにしました。初日の夕食は「手巻き寿司」、翌朝は定番の「ご飯と味噌汁」、2日目の夕食は「ぶ

仕事帰りに魚屋へ寄って食材を受け取り、その足で彼女達

を縦 区画 成さ 砂 打 藻、 材料 淡、 フー 過ぎ 通り 思え 求 こ 散歩 駐車 山の リン 科、 が咲 こと えて だ。 ○こ だ 〇

を縦 区画 成さ 砂 打 藻、 材料 淡、 フー 過ぎ 通り 思え 求 こ 散歩 駐車 山の リン 科、 が咲 こと えて だ。 ○こ だ 〇